



2050年カーボンニュートラル達成を目指そう

公益財団法人地球環境産業技術研究機構

専務理事 本庄 孝志

RITE が設立されたのは 1990 年 8 月 1 日で、設立 35 年を超えた。この 35 年間で、地球温暖化防止に向けた世界の取り組みは、大きく変動した。今から 5 年ほど前の 2020 年には、世界中で、2050 年カーボンニュートラルの達成という目標が掲げられ、日本政府もその目標を掲げた。2050 年は、RITE 設立 60 周年で、人間でいえば還暦を迎える年である。地球温暖化防止の研究を地道に続けてきた RITE の研究成果がカーボンニュートラルの達成に貢献できれば、一つの区切りとなると考えられる。

他方で、ここ数年、ウクライナ戦争の勃発、第 2 期トランプ政権の誕生などにより、国際情勢が混迷する中、地球温暖化防止に向けた世界の取り組みは、混とんとしてきた。昨年の COP(気候変動に関する国際連合枠組条約締約国会合) や IPCC(気候変動に関する政府間パネル)における議論からすると、従来からあった、温暖化対策についての先進国と途上国との対立に加え、先進国間の足並みも揃わなくなっているように見える。また、イラン戦争の勃発により、国際エネルギー情勢は先を見通せない状況になり、化石燃料の見直しの議論も起こっている。

しかしながら、昨今の世界の平均気温の上昇や、世界全体での異常気象の増加などを勘案すると、地球温暖化防止の必要性は、低まるどころか、むしろ高まっていると言えよう。

以上のような状況の下、地球温暖化防止を研究する研究機関として、RITE はその本来の役割を果たしつつ、研究成果を世界に発信することが求められていると考えられる。2025 年大阪・関西万博は、その良い機会であると捉え、RITE は、大気からの二酸化炭素の直接回収(Direct Air Capture(DAC))を中心として、二酸化炭素の分離回収・地中貯留(CCS)や、コンクリート材への二酸化炭素の吸収(炭素固定)などのネガティブエミッション技術の展示を中心とした「RITE 未来の森」を出展した。

「RITE 未来の森」の具体的な内容は、このあとの特集の中で詳細に説明するが、大阪・関西万博の会場で、地球温暖化の現状、温暖化対策の必要性、温暖化対策技術の具体的な内容などを、映像を用いたり、実際のプラントを運転したり、実際に CCS で用いるツールを展示するなど、多くの来場者にご紹介し、その理解を得た。RITE としては、このような努力を続け、温暖化防止の研究に加え、カーボンニュートラル達成の必要性を強くアピールし、2050 年カーボンニュートラルの達成に向けて、貢献していきたい。